

異世界間移動の技術が存在する「[魔法少女リリカルなのはシリーズ](#)」に登場する架空の組織。シリーズ2作目「A's」以降、[高町なのは](#)や[フェイト・テスタロッサ](#)も所属している。^(*1) ミッドチルダと呼ばれる次元世界が中心となり、幾つかの世界が共同で運営を行っている。

(StrikerSから)約150年前に成立し、次元世界から質量兵器の根絶^(*2)と[ロストロギア](#)の規制を働きかけてきた。75年前から各次元世界の管理を始め、以降数多に存在する次元世界を管理・維持している。通称「管理局」。曰く「警察と裁判所が一緒になった様な所」で、他にも文化管理や災害の防止・救助など手広く活動しているが、次元空間を航行可能な戦艦や総数が知れない魔導師部隊群など、警察と呼ぶにはいささか過剰すぎる戦力を有している。

主に次元航行部隊(通称「うみ」)、地上部隊(通称「おか」)の2つに分けることができ、1期、A'sは次元航行部隊所属のアースラチーム、StrikerSでは地上部隊に新設された機動六課がメインで活躍する。地上部隊は階級呼称に自衛隊式のものを使用しているが、今の所次元航行部隊でも採用されているかは不明、StrikerSにて軍事色が色濃く出た理由として「話の舞台が地上部隊に移ったから」という見方が出来る。

+ 作中で登場した主な役職

社会正義を執行する機関とされているが、上記のとおり強大すぎる力を有するが故に不透明な影の部分も少なくない。また、次元航行部隊と地上部隊の対立が存在したり、大きすぎる組織であるために融通が利かず後手に回りやすいなど、巨大な集団によくある問題点にも悩まされている。そして『StrikerS』においては、まさにこういった問題点の集大成 組織腐敗 + 社会問題(後述)の図式で物語が展開され結局、物語が終わっても何ら改善される(改善しようとする)方向すらなかった。

管理局の局員は必ずしも全員が魔導師であるという訳ではなく、むしろ魔法を用いない局員も数多く存在している。求められる技能が高い上にカバーする次元世界の数が膨大なために慢性的な人員不足の傾向があり、優秀な人物、かつ人間性に問題がないと判断されれば経歴の如何を問わず積極的に採用する傾向がある。^(*3) ミッドチルダという世界における就業可能年齢がかなり低いということもあり、年端も行かない子供であろうと重要な役職や任務に就くことも多い。10代で執務官、20代で提督になった例もあるほど。...が、それは裏を返せば、いわば「魔導師(魔力)至上主義」という社会問題とも言えるものであり、実際、『StrikerS』本編において

実績・キャリアともに申し分ないが、魔力を持たない体質であったばかりに軽んぜられたという背景を持った人物が登場しており、前述における経歴の如何を問わず積極的に採用する~というシステムに対し、思い切り不満を露にしていた。

ニコニコRPGにおいては最終話でその存在が明示される。エンディングにて[EDF](#)との協力体制が成立。また、なのはがフェイトと共に管理局の所属であるという旨が明かされた。